

## 今後の進め方に関する論点（案）

○今後、国土形成計画を見直すにあたって、どういうことを考慮すべきか。

（例）

- ・ 全国計画と広域地方計画を同時に進めていかなくて良いのか
- ・ 国土強靱化や、少子化と人口減少の克服を目指した総合的な政策の推進など、政府の他の動きを踏まえた対応

○その際の広域地方計画協議会の活用に関し、考慮すべき点は何か。

（例）

- ・ 参画メンバーをもっと柔軟に広げなくてよいか

○本グランドデザインを素材とし、未来の国土や地域の姿について、国民の間で活発な議論が展開されるようにするための方策はどのようなものがあるか。

（例）

- ・ かつて我が国が実施した「日本八景」のような宝探し、国民運動

○そのために、国として提供すべきデータ、情報等にはどのようなものがあるか。

（例）

- ・ これまで国交省の分析で使用・作成したデータ（1 km メッシュ推計人口や国土数値情報の公共施設、小学校等のデータなど）や、それらのデータ分析やマップ化のサンプル（テンプレート）を広域地方計画協議会メンバー等に提供

○その他

国土形成計画は、全国計画と広域地方計画の二層の計画体系となっており、広域地方計画については、広域地方計画協議会が、その案を策定することとなっている。

## 国土形成計画の枠組み

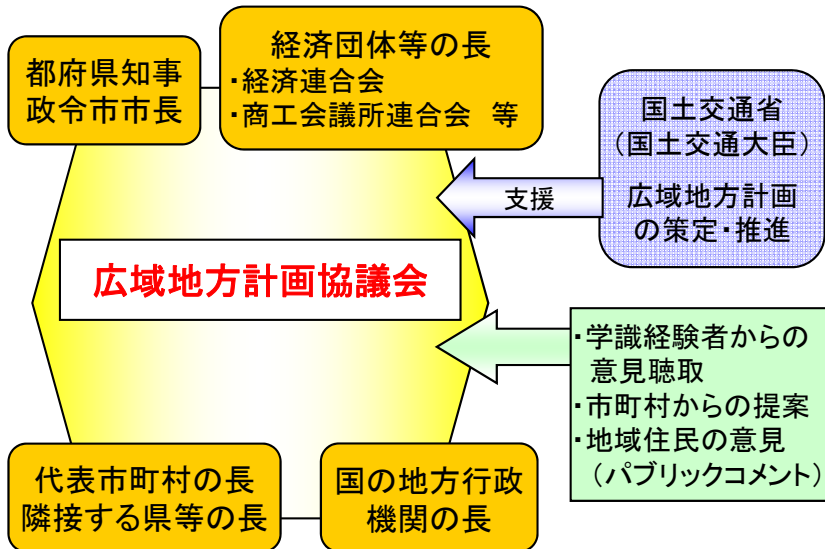
### 全国計画（平成20年7月閣議決定）

- 長期的な国土づくりの指針（閣議決定）

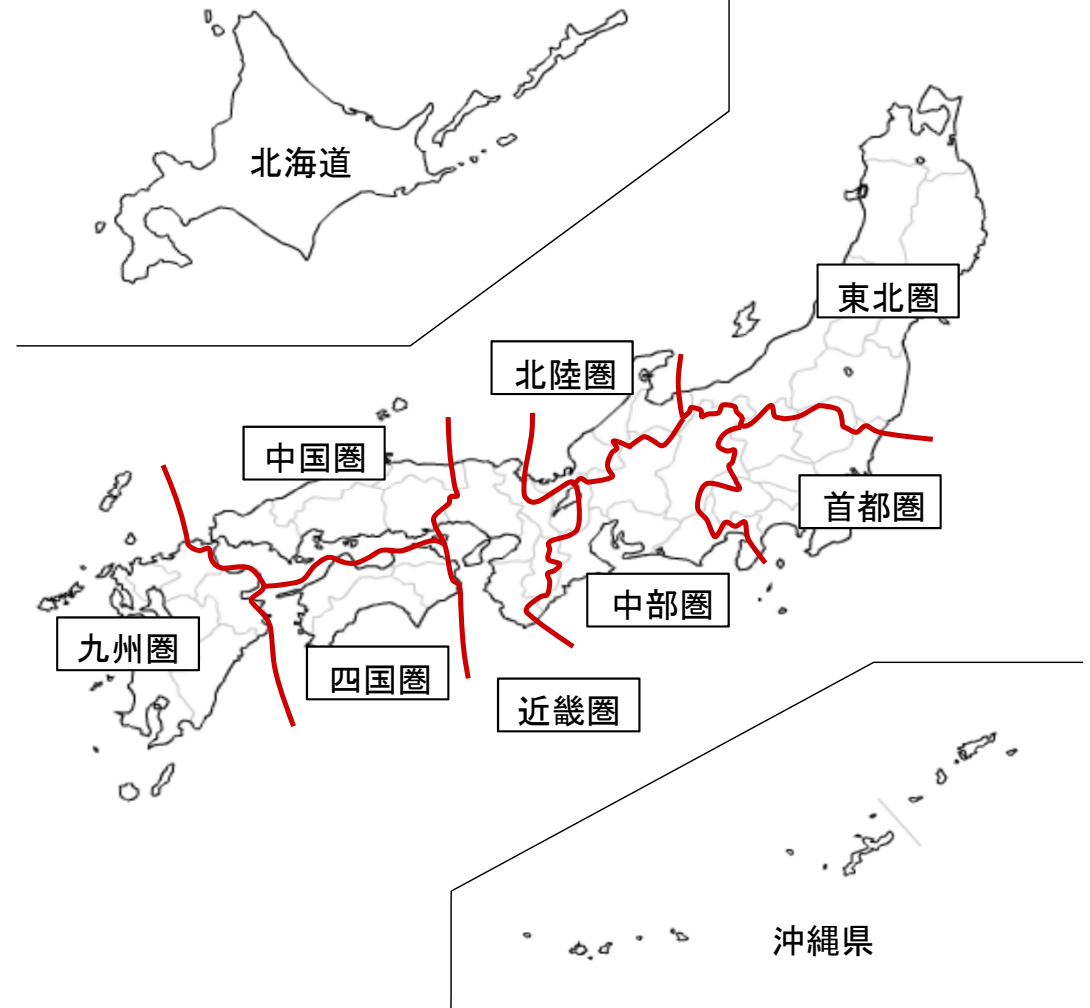


### 広域地方計画（平成21年8月策定）

- 地域の実情に即した地域の将来像
- ・ 国、地方公共団体、経済団体等で構成する**広域地方計画協議会**において案を策定し、国土交通大臣が決定



## 広域地方計画の区域



※広域地方計画協議会は、北海道総合開発計画が策定されている北海道及び沖縄振興計画が策定されている沖縄県を除き全国8ブロックに設置されている

平成 26 年 6 月 24 日閣議決定

第 1 章 アベノミクスのこれまでの成果と今後の日本経済の課題

4. 日本の未来像に関わる制度・システムの改革

（「人口急減・超高齢化」の克服）

デフレ脱却・経済再生の先に、もう一つ超えなければならない高いハードルがある。現在の日本は、「人口急減・超高齢化」へ確実に向かっている。この流れを変えなければ、持続的・安定的な成長軌道に乗っていくことはできない。

（中略）

（望ましい未来像に向けた政策推進）

人口急減・超高齢化への流れを変え、望ましい未来像に向けた改革・変革を進めていくことにより、以下のような道筋が描かれる。

- ① 人口急減・超高齢化に対する危機意識を国民全体で共有し、50 年後に 1 億人程度の安定した人口構造を保持することを目指す
- ② 経済を世界に開き、絶え間なくイノベーションを起こし、高付加価値な財・サービスを生み出すことを通じて、成長を続ける
- ③ 年齢、性別に関わらず、意欲、個性や能力に応じて様々な形で活躍できる社会、制度、仕組みを構築する
- ④ 個性を活かした地域戦略と、地域における「集約・活性化」を進め、働き場所があって暮らし続けられる地域社会をつくる
- ⑤ 基盤的な制度、文化、公共心など社会を支えている土台を大切にする

望ましい未来像とそれに至るまでの道筋を共有し、現在必要となる取組について、局所的な対応に陥らないよう、優先度に留意しながら、全体として推進していくことが重要である。デフレ脱却・経済再生に向けた動きを確実にするとともに、その先を見据え、社会保障制度と財政の持続可能性を確保しつつ、地域社会の再生、発展を可能とし、日本経済の持続的・安定的な成長を実現していく観点から、人口急減・超高齢化の克服に向けた諸課題への対応にスピード感を持って取り組んでいく時である。とりわけ、地域の活力を維持し、東京への一極集中傾向に歯止めをかけるとともに、少子化と人口減少を克服することを目指した総合的な政策の推進が重要であり、このための司令塔となる本部を設置し、政府一体となって取り組む体制を整備する。

# 日本八景について

## 日本八景の 選定方法

主催 : 東京日日新聞と大阪毎日新聞の共同企画(鉄道省後援)  
 募集期間 : 1927年(昭和2年)4月9日～同年5月20日  
 趣旨 : 過去の趣味や鑑賞方法によらない、「昭和の新時代を代表すべき新日本の勝景」を「われ等の新しい好尚」で選定すべき

投票総数: 93, 481, 773票

当時の状況  
 総人口約6000万人  
 全国各地で活動が活発に行われた郵便投票により逓信省に総額200万近い収入が入った

候補地 136候補地  
 一景ごと10位まで(計80候補地)  
 審査員48名の推薦(56候補地)

※葉書1枚につき一つの景色を記入して応募

※一景とは?  
 投票対象八景の一つのこと

### 投票規定

1. 日本全国の山岳・溪谷・湖沼・海岸・河川・平原・瀑布・温泉の八景から各代表的の第一景を選びこれを推薦選定す
2. 推薦は一般公衆によつて行はれる
3. 推薦投票は一般公衆から募集する、用紙は官製葉書に限り一景一枚と定む(連記は無効)
4. 各景毎に推薦投票高順位十位づつを候補地として、これを審査委員会に移し同委員の手により厳選決定す
5. 審査委員会は各方面の学者専門家を主体として組織される
6. 選定されたる新八景は鉄道省において公認し種々の方法によって永くこれを紹介す
7. 審査委員会によつて決定された日本新八景に入選せる各景の投票者一景千名(八景八千名)に記念品を贈呈し別に一景につき一等一名、二等二名、三等三名(八景にて一等八名、二等十六名、三等二十四名)に賞を贈る、但しいづれも抽選による
8. 入選新八景地に知名文士と画家を派しその紀行文並にスケッチを東京日々、大阪毎日両紙上に連載する
9. なお詳細の方法、選定委員の顔触は逐次発表いたします

- 審査基準
- ①大規模 ②多様性 ③四季の変化
  - ④交通利便性 ⑤史跡や天然記念物の存在
  - ⑥大衆向け施設の存在または設置可能性
  - ⑦地理的分布(温泉においては湧出量と泉質を参酌する)

- 審査委員の3分の2以上の賛成により候補地を追加できる
- すでに有名な日本三景と「山岳としての富士山」や、庭園などの「人工的名勝」は選定外とする
- 団体投票の許可

1927年(昭和2年)7月6日発表

日本八景(後に各景に文人と画家が赴き紀行文を作成)

このほかに二十五勝と百景が定められた

雲仙岳(長崎) 菊池幽芳と富田溪仙	上高地溪谷(長野) 吉田絃二郎と山元春舉
華厳滝(栃木) 幸田露伴と横山大観	木曾川(愛知) 北原白秋と藤島武二
十和田湖(青森秋田) 泉鏡花と竹内栖鳳	狩勝峠(北海道) 河東碧梧桐と石井鶴三
室戸岬(高知) 田山花袋と松岡映丘	別府温泉(大分) 高浜虚子と堂本印象

参考文献 「日本八景:十六大家執筆」

山岳: 立山(富山) 阿蘇山(熊本) 木曾御嶽(長野) 白馬岳(長野)  
 溪谷: 瀨八丁(和歌山) 黒部峡谷(富山) 御嶽昇仙峡(山梨) 天龍峡(長野)  
 湖沼: 富士五湖(山梨) 琵琶湖(滋賀) 大沼(北海道)  
 海岸: 屋島(香川) 鞆の浦(広島) 若狭高濱(福井)  
 河川: 利根川(千葉) 球磨川(熊本) 長良川(岐阜)  
 平原: 大和平原(奈良) 日田盆地(大分)  
 瀑布: 那智瀧(和歌山) 養老瀧(岐阜) 袋田瀧(茨城)  
 温泉: 熱海温泉(静岡) 鹽原温泉(栃木) 箱根温泉(神奈川)

二十五勝